

平成20年度
ユースウェア委員会 活動報告

平成21年3月



社団法人コンピュータソフトウェア協会

目次

| | |
|----------------------------------|---|
| 目次 | 3 |
| ユースウェア委員会委員名簿 | 4 |
| ユースウェア委員会 実施概要 | 5 |
| CSAJ（ユースウェア委員会）他、2 団体との共催イベント | 6 |
| ITソリューションフェア in ママカリ '08 開催報告 | 6 |
| ユースウェア委員会 主催セミナー | 8 |
| 「中小企業向け SaaS サポートビジネス支援セミナー」開催報告 | 8 |

ユースウェア委員会委員名簿

(五十音順、敬称略)

| | | |
|-----|--------|----------------------|
| 委員長 | 藤井 洋一 | 日本ナレッジ株式会社 |
| 委員 | 岩井 隆郎 | 株式会社キューブマジック |
| " | 上野 準一 | 株式会社エースシステム |
| " | 大原 泉 | 株式会社オービックビジネスコンサルタント |
| " | 神徳 和幸 | エムアンドエーシステム株式会社 |
| " | 佐々木 啓治 | 株式会社システムカルチャー |
| " | 柴倉 康則 | マクロブリッジ株式会社 |
| " | 辻岡 庸介 | 辻岡税理士事務所 |
| " | 堀口 幹友 | 有限会社キャンユー |
| " | 宮内 伸一 | 株式会社 MSC |
| " | 山田谷 勝善 | 経営創研株式会社 |
| 事務局 | 小林 哲 | 社団法人コンピュータソフトウェア協会 |

ユースウェア委員会 実施概要

第1回ユースウェア委員会

平成20年11月5日（水）10:00～12:00

- 1．ITソリューションフェア in ママカリ'08報告
- 2．SaaS 活用基盤利用促進研修事業の公募について
- 3．PC-SOS について

・「ITソリューションフェア in ママカリ '07」

会期：平成20年10月7日（水）～8日（木）

会場：岡山コンベンションセンター（ママカリフォーラム）

（社）システムエンジニアリング岡山（SEO）、日本情報振興協同組合（JIA）とCSAJの3団体合同で開催。参加企業数40社、来場者数約350名。

特別講演：SaaSの未来を考える - SaaSの本質とソフトウェアビジネスへの影響 -

講師：前川 徹 氏（CSAJ専務理事）

第2回ユースウェア委員会

平成20年12月8日（月）16:00～17:30

- 1．SaaS 活用基盤利用促進研修事業に対する提案について
- 2．PC-SOSの活性化について

第3回ユースウェア委員会

平成21年3月9日（木）13:00～14:00

- 1．委員会組織変更および名称変更について
- 2．平成21年度活動について
- 3．「PC-SOS」登録商標継続について
- 4．PC-SOS 登録事業者向けアンケート結果について
- 5．ママカリ収支報告

・中小企業向け SaaS サポートビジネス支援セミナー

平成21年3月9日（月）

会場：TOSLOVE 市ヶ谷

講師：安田 篤氏（経済産業省 商務情報政策局 情報処理振興課 課長補佐）

勝瀬 典雄氏（経済産業省 SaaS 活用基盤整備事業プロジェクト担当）

津幡 靖久氏（フィードパス株式会社 代表取締役社長）

日野 和麻呂氏（株式会社オービックビジネスコンサルタント 開発本部 部長）

CSAJ（ユースウェア委員会）他、2団体との共催イベント

ITソリューションフェア in ママカリ '08開催報告

開催日時：平成20年10月7日（水）～10月8日（木）

会場：岡山コンベンションセンター（ママカリフォーラム）

参加企業数：40社

来場者数：約350社



平成20年10月7日から8日までの2日間、岡山コンベンションセンター「ママカリフォーラム」にてCSAJ、社団法人システムエンジニアリング岡山、日本情報振興協同組合の3団体共催による「ITソリューションフェア in ママカリ '08」が開催されました。フェアはIT企業によるプレゼンテーションと製品展示、そして特別セミナーで構成され、来場者数は約250名となりました。

製品展示はママカリフォーラムの2階ロビーと2階展示ホールの2箇所で行なわれました。展示ホールには企業プレゼン会場が併設され、企業によるプレゼンのほか、セミナーが開催され、CSAJからは前川徹専務理事より「SaaSの未来を考える～SaaSの本質とソフトウェアビジネスへの影響～」と題して講演が行われ、SaaSとは何かから始まり、SaaSのメリット・デメリットなどを数字を交えての分かりやすい講演内容となりました。

CSAJ 会員企業で企業プレゼンを行なったのは日本ナレッジ株式会社とエムアンドシーシステム株式会社の2社。日本ナレッジ株式会社からは遠隔地バックアップを実現する「K-IXセキュアバックアップサービス」を、エムアンドシーシステム株式会社からはWebベースマニュアル作成サービスについてプレゼンテーションを行ないました。

また、初日の夜にはフェア関係者を集めたビジネス交流懇談会が開催され、初めの挨拶を前川徹 CSAJ 専務理事が、締め挨拶を藤井洋一 CSAJ 常任理事（ユースウェア委員長）が行ないました。

ITソリューションフェア in ママカリ'08 来場者数

| | |
|-----------------|-------|
| 総来場者 | 約250名 |
| 展示関係者 | 約60名 |
| + 見学学生（地元専門学校生） | 40名 |



2階ロビー展示会場



2階展示ホール展示会場



SaaS について講演をする
前川徹 CSAJ 専務理事



日本ナレッジの「K-IX セ
キュアバックアップサービ
ス」



エムアンドシーシステムの
「ウェブマニュアル」



ビジネス交流懇談会にて挨拶をする藤井洋一 CSAJ 常任
理事

ユースウェア委員会 主催セミナー

「中小企業向け SaaS サポートビジネス支援セミナー」開催報告

開催日時：平成20年2月15日（金）15:00～17:35

会場：TOSLOVE 市ヶ谷

参加者数：70名



去る平成21年3月9日(月)、TOSLOVE 市ヶ谷にて、「中小企業向け SaaS サポートビジネス支援セミナー」が開催されました。このセミナーはユースウェア委員会が主催し、経済産業省が主導している「J-SaaS」をはじめとした、ソフトウェアの新しい使用形態である SaaS について、日ごろから中小零細企業をサポートしているサポート事業者や Sier、販売店、ベンダー、IT コーディネーターの方々に興味を持っていただこうというのが、このセミナーの趣旨でした。当初は定員を50名としていたところ、参加申し込みが殺到し、最終的には会員企業を中心に、PC-SOS データベース登録事業者や IT コーディネーターなど、70名近くのご参加をいただき、関心の高さが伺えました。

経済産業省が推進する中小企業向け SaaS 事業（J-SaaS）



経済産業省 商務情報政策局 情報処理振興課 課長補佐 安田篤氏より、「経済産業省が推進する中小企業向け SaaS 事業（J-SaaS）について」と題し、行政による SaaS 普及への取り組みについてご講演いただきました。

安田氏は、まず日本国内における中小企業の生産性の低さ、景況感の悪化、そして特に従業員20名以下の小規模企業の IT 化が遅れている現状を示しました。IT 化が遅れている理由として「初期投資額が高額」、「高度な IT スキルが必要」、「セキュリティ対策やデータ管理まで手が回らない」を挙げ、「e- Japan 戦略」の流れを汲む「IT 新改革戦略」において、「SaaS など中小企業にとって使いやすい新たなサービス普及促進の環境整備」が行われることになった旨、説明されました。また、企業に対する調査を行なった結果、従業員20名以下の小規模企業において SaaS で利用してみたい分野は「財務会計」、「給与管理」で、月額利用料金は3,000～5,000円、これらを念頭に作られたのが「SaaS 活用基盤（J-SaaS）」とのこと。

「J-SaaS」は小規模企業対象に財務会計などバックオフィス業務から電子申告までを一環として行えるワンストップサービスで、共通ポータルサイトを通して必要なアプリケーションを利用できるようになり、企業が入力した情報を活用して国税等の申告書作成を専門家のサポートを受けながら作成できるなどの特徴を持っているそうです。既に22社のアプリケーションが載っており、現在は全国各地で「J-SaaS 普及指導員」の育成とセミナーを実施しているところで、サービス自体は平成20年3月末からスタートするそうです。平成21年度はアプリケーションの本格展開とサポートネットワークの本格展開を予定しているとのことでした。

J-SaaSの原点は中小企業支援策



経済産業省 SaaS 活用基盤整備事業プロジェクト担当 勝瀬 典雄氏より、J-SaaS 事業について今まで公に語られることがなかった補足的な説明のご講演をいただきました。

業界の視点から見たときに、J-SaaS を、なぜ国が考えたのか、どう活用してどうビジネスに展開していくのかについて、今まで十分に声明されなかったことについて説明。原点は中小企業支援策にあって、そこで中小企業に対する経営支援（コンサルや金融支援など）を迅速に行う仕組みが必要とされ、その際に経営情報をしっかりと把握している中小企業は非常に少なく、そこを解消する必要があるとのことでした。

課題としてあるのは、日本企業の風土でネットワークを使ったサービスというのが、まだ受け入れられてないという現状にあるという点です。「国の論理」で作るのではなく、「民間の論理」で政策にのっとってマーケットを作っていかなければならないという観点から進行しているプロジェクトだそうです。ただし、情報産業主導型で進めるのも中小企業支援策でも無理だろうということで、国がインフラを提供し、ベンダーと一緒に新しいビジネスモデルの構築とマーケットを作ることやりましょうというのが、今回初めて行われるプロジェクトということです。また素早く動けるように顧客を持っている専門家（ITコーディネータ、超小企業診断士、地域のパソコン教室、税理士など）を J-SaaS 普及指導員を育成してサービス提供をしていくことをしているところで、これはかなり戦略的に動いているとのことでした。

事業者にとって SaaS は「重い」



フィードパス株式会社 代表取締役社長 津幡 靖久氏より、「SMB(Small and Medium Business)における SaaS 導入と活用」と題し、SaaS ビジネスの現状と今後の見通しについてご講演いただきました。

まず関連会社であるサイボウズとの関係や自社製品についての解説の後、SaaS ビジネスの現状として16ヶ月で約6倍の稼働ユーザ数になったもの思ったほどユーザが増えておらず、また勢いが無いとの素直な感想を述べられました。ユーザ層の分析結果について、Web メールシステム「feedpath Zebra」で1社辺り約30アカウント、サイボウズグループの安心感と価格、サポート体制の安心感で採用されているとのこと。SaaS そのものについては、新たな価値を創造するような SaaS ならではのサービスが登場しないと市場はブレイクしないのではないかと懸念があるそうです。

SaaS 分野で先行しているネットスイートやセールスフォース・ドット・コムを挙げ、黒字になるまで非常に時間がかかり、ゼロベースから事業立ち上げるためには5年くらいの期間と多額の投資を覚悟する必要があるとのことでした。また SaaS 事業はパッケージより収益を上げることが難しく、コスト構造の違いを意識する必要もあるとのことでした。ビジネスモデルとしては「通信キャリア」に近いものがあり、新規顧客を獲得するために多額の投資が必要であったり、販売チャネルの育成が重要になるようです。SaaS ビジネスの現状について、かなり具体的な話をされましたが、実際に SaaS 事業を進めてきた立場から、今年辺りから着実にユーザへ根付くだろうとのことでした。

SaaS に対する疑念へ応えられるようなサービスを展開したい



株式会社オービックビジネスコンサルタント開発本部 部長 日野 和麻呂氏より、「中小企業向け業務システム 奉行 for J-SaaS のご紹介」と題して、J-SaaS に採用された製品の説明と、どのような製品展開していくのかについてご講演いただきました。

3月末の J-SaaS スタートインに向けてすでに開発は終了しているものの、展開については試行錯誤の段階。奉行シリーズは幅広いユーザ層をターゲットにしているものの、起業したばかりの企業や SOHO クラスなど、量販店でパッケージを購入している層には売りにくかったため、J-SaaS では従来の奉行シリーズではカバーできなかった層へエントリーモデルとして位置付けるとのことでした。J-SaaS 自体の大きな特徴は電子申告や e-TAX と連携できるところにあり、会計士や税理士と一緒にビジネスをしていきますが、損保などと

組むなどの必要性も感じているとのことでした。

J-SaaS での基幹系 SaaS で求められているのは手軽で安いことで、ネットワーク遮断やデータを預けることの不安、Web の場合は操作性で Windows などの UI と比べ劣る、基幹系は運用率を限りなく100%に近づければならない、使うなら使うで簡単には止められないといった問題が基幹系 SaaS のひとつのハードルとなっていると考えているそうです。OBC ではクライアント認証型 SaaS を J-SaaS では採用しており、クライアント PC にプログラムとデータを格納する方法で、手軽ですぐに使い、買うより安く済むようにしているとのこと。既存のアプリを単純に SaaS 化しているのではなく、オンラインでの機能自動更新や画面上でのナビゲーション機能の強化、アンダーラインがひける電子ブックマニュアル、ネットワーク上のストレージへの バックアップ機能など、SaaS ならではの機能を実装しているということでした。

セミナー後の交流会で名刺交換



セミナー終了後、懇親会が開催され、講師の皆様、聴講された企業の皆様が各々に名刺交換をされました。小さな懇親会場でしたが、非常に多くの方が時間一杯まで熱心に相互にお話をされていました。

中締めとして、前川 徹 CSAJ 専務理事に一本締めを行っていた
だき、無事終了しました。

今回のセミナーを開催するにあたり、各方面から多大な御協力を賜りました。この場を借りて御礼申し上げます。

平成 20 年度 ユースウェア委員会 活動報告書

平成 21 年 3 月 発行

発行 社団法人コンピュータソフトウェア協会 (CSAJ)
〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-15 日本自転車会館 1 号館 5 階
TEL : 03-3560-8440 FAX : 03-3560-8441
URL : <http://www.csaj.jp/>

©2009 Computer Software Association of Japan